

中学生はどのような理由で部活動を選ぶのか

発表者 杉浦ちはる
指導教員 渡邊 将司

キーワード：体力、友人関係、運動経験、性差、運動強度差

1. 緒言

成長期にあたる中学生にとって運動は体の成長と心の成長の両方において欠かせないものである。体の成長に運動が与える影響は、骨の成長促進や骨密度の育成、成長ホルモンの分泌、食欲の増進など様々である¹⁾。また、思春期の人格形成においても、スポーツ活動経験者はスポーツ活動をしていない者に比べ忍耐力、積極性、自己実現意欲、協調性が優れている²⁾。さらに、思春期のスポーツ活動は持ち越し効果などから生涯スポーツにもつながりやすいため、生涯の健康維持、生活習慣病予防、病気の予防などにも役立ち、中学生期のみならず生涯にわたってメリットが大きいと言える³⁾。そこで、本研究は中学校の部活動選択に焦点をあて、どのような理由が部活動選択に関係しているのか、また個人の体力や運動への好感度との関係性も明らかにする。部活動選択において周囲の影響が大きいのであれば、教師側の環境づくりが大切であり、過去の経験が影響しているのであれば小学校において多様な経験をさせる機会をつくり、体力が関連しているのであれば中学入学前の体力づくりが必要であろう。このように、中学生の部活動選択の理由が明らかになれば学校側の環境づくりや小学校時の体育の授業やクラブ、地域でのスポーツ活動などへの介入によって、スポーツ活動の活性化や、生徒が現在よりも選択肢を広げることに役立てることができる。

2. 研究方法

1) 対象者

茨城県内の3つの中学校に通う中学校1年生を対象とした。対象人数は、477名（男子253名、女子224名）であった。

2) 調査項目

a. 部活動選択に関する質問紙調査

現在参加している部活動名、入部の理由、学校外で行っている習い事について選択回答式の質問紙調査を行った。入部の理由に関する質問は入部を決めた理由の上位3つを丹羽⁴⁾の論文をもとに設定した25項目から選択させた。

b. 新体力テスト

各学校で実施された文部科学省新体力テストの結果を過去3年分（対象者の小学校5年生から中学校1年生まで）収集した。なお、小学校において実施されるソフトボール投げは中学校においてハンドボール投げに種目に変更になるため、返却される結果シートにはソフトボール投げの結果は表示されなかった。そのため、ソフトボール投げの結果は収集できなかった。

c. 体力と運動に関する意識調査

運動有能感に関して、運動や体力に自信があるかを、「自信がある」、「少し自信がある」、「あまり自信がない」、「自信がない」の4択、また運動

好感度に関して、運動が好きかどうかを、「好き」、「まあまあ好き」、「あまり好きではない」、「さらい」の4択から選択回答式で質問紙調査を行った。

3) 統計処理

部活動は高強度運動部、中低強度運動部、そして文化部の3つに分類した。運動部の分類に関して国立健康・栄養研究所の改訂版「身体活動のメッツ (METs) 表」をもとに各スポーツのMETsをあてはめ、6 METs以上のスポーツを高強度の運動部、6 METs未満のスポーツを中低強度の運動部とした。なお、運動時間・運動日数においては、各部であまり差が見られなかったため、METsのみで分類した。収集したデータは単純集計した。統計ソフトはJMP8.0を用いて行った。また、体力テストの総合評価は、ハンドボール投げの結果が収集できなかった為、ハンドボール投げを除く7種目の総合得点を、ハンドボール投げを含めた8種目の総合得点と照らし合わせて比を算出して求めた。

3. 結果と考察

中学生における部活動選択の理由を、男女別、運動強度別（文化部、高強度運動部、中低強度運動部）に分析した。全体的にみて、部活動の選択理由は「楽しそうだから」と答えるものが多く、必ず入らなければならない、なんとなくはといった否定的な理由ではなく、部活動を楽しみたいと思っている生徒が多かった。

a. 男女別の特徴

男女別に見てみると、男子は「以前からやっていた」、「技術を高めたい」と答えている生徒が多いことから部活動そのものの活動内容から部活動を選択していたと言える。それに対して女子は、「楽しそうだから」に次いで「仲間と楽しく過ごせそう」と選択している者が多く、また運動が「好き」な生徒は多いが、運動が「好き」と部活動選択は「関係している」と答えたものが半数ほどであったことから周りの友人の環境、雰囲気から部活動を選択していると考えられる。

b. 運動強度別の特徴

運動部強度別にみると（図1～3）、文化部は女子が人数のほとんどを占めていたこともあったか、部活動選択理由は部活動の活動内容よりも周りの友人の環境、雰囲気の影響を受けている傾向が強かった。運動に対する好感度と部活動選択の関係性についても約40%が「嫌い」な事と部活動選択は「関係している」と答えている。さらに、文化部選択者は小学校6年生の段階で新体力テストの総合結果がB、C判定が多く、小学校の段階での何かしらの運動への取り組みを行うことによって、体力向上、運動に対する苦手意識も弱まり、中学校での部活動選択において運動部も選択肢に入れるようになるのではないかと考察する。

一方で、高強度の運動部の部活動選択理由は「以前からやっていた」という回答が多いことから（図2）、小学校の段階で行っていた運動が中学校部活動に継続されるといえる。このように、継続、持ち上がり効果を期待して中学校運動部活動を活性化させるためには、小学校での運動への取り組みや地域クラブ活動の環境に大きく左右されると考えられるため、家庭、学校、地域との連携も大切であると考えられる。また、運動部活動の選択理由において「以前からやっていた」という理由が高いことから、小学校の段階で運動に慣れ親しんでいるため、体力に自信があり、運動も「好き」である生徒が多いと言える。また以前から運動を行っていることもあってか、小学校6年生時の新体力テストの結果は高かった。

中低強度の運動部では、部活動の選択理由において最も高い回答の「楽しそうだから」について、「以前からやっていた」、「新しいことに挑戦」の回答が同じ程度に多かった（図3）。また、体力に関しては60%が自信がない、あまり自信がないと答えているのに対し、運動好きかの質問では80%が運動は「好き」、「まあまあ好き」と回答している。つまり、小学校からの運動活動の継続効果も多いが、新しいことを始める者も同じくらいいることから、小学校時に運動クラブなどに入っていない生徒、また小学校に段階でやっていた活動とは別の新しい運動活動に挑戦する者で体力に「あまり自信はない」が運動が「好き」な生徒が入りやすいのが中低強度の運動部であるといえる。中低強度の運動部は、高い体力よりも、高い技術が必要とされる卓球や剣道、弓道などが多いことも体力に「自信のない」生徒が入りやすい運動部であることと関係しているといえる。

4. まとめ

中学校1年生を対象に部活動選択に関する質問紙調査を行い、男女別、運動強度別に部活動選択理由や体力、運動に対する好感度と入部との関係などの特徴を明らかにした。得られた結果は以下の通りである。

- 1) 男子における部活動選択の理由は、周囲の友人環境などより部活動の活動内容や中学入学以前の活動を継続して行う傾向が強い。また、ほとんどの生徒が運動に対して好印象を持っており、運動好感度と部活動選択との関係性も強いと言える。
- 2) 女子および文化部においては、周りの環境、友人関係が部活動選択に関係していた。
- 3) 高強度の運動部に所属している生徒は、小学校からのスポーツ活動の継続効果が大きかった。日頃から運動に慣れ親しんでいるため入学前の身体能力も高く運動に対しての好感度も高い。このことから、中学校において運動部を選択する上で、小学校の段階での運動への介入も大切である。
- 4) 中低強度の運動部活動に所属している生徒は、体力にはあまり自信はないが運動が好きでな者が多かった。中低強度の運動部は、以前からの継続と運動があまり得意でない生徒が新しいことを始める上で運動を楽しむために選ん

でいる傾向がある。

5. 文献

- 1) 猪野郁子 (1999) 小学校児童の骨密度と生活に関する研究. 島根大学教育学部紀要 33 : 39-42.
- 2) 徳永幹雄 (2002) 健康と競技のスポーツ心理. 不昧堂出版 : 東京, pp. 156-177.
- 3) 鈴木宏哉 (2011) おとなに持ち越される子どもの頃の身体活動. 子どもと発育発達, 9(1) : 8-14.
- 4) 丹羽昶昭 (1978) 女子大生のスポーツ参加を規定する要因の検討. 社団法人日本体育学会, 体育学研究, 23(2) : 109-119.

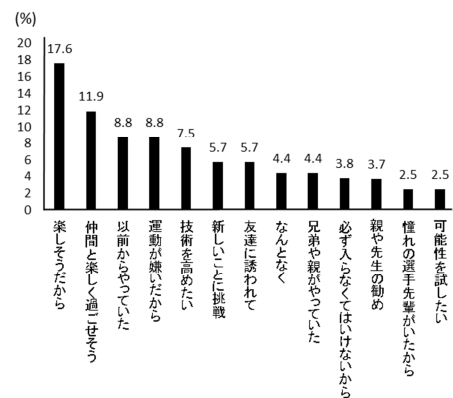


図1 文化部の部活動選択理由

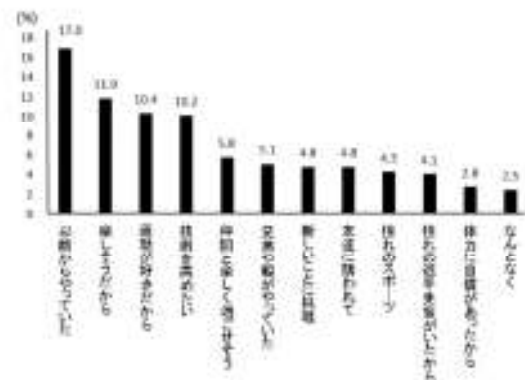


図2 高強度運動部活動の部活動選択理由

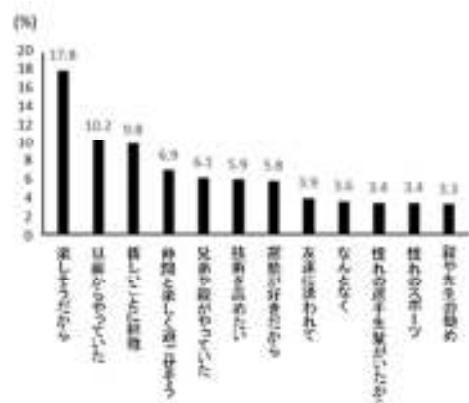


図3 中低強度運動部の部活動選択理由